

放射線の基礎知識

6月号では、日常生活で浴びる放射線の種類や量について紹介しました。

今月のテーマは、放射線と発がんリスクの関係についてです。

放射線は見えない針のようにDNA（遺伝子）を傷つけるため、多くの放射線を浴びてしまうと、傷ついたDNA（遺伝子）の回復が間に合わず、人の身体にさまざまな影響を及ぼすということは、4月号でご紹介したとおりです。

そのような影響、つまり『放射性障害』の代表的な例の一つに『がん』があります。

今回は放射線量によって、発がんの可能性がどのくらい増加すると言われていているかをお知らせするとともに、生活習慣に起因するさまざまな発がんリスクとも比較しました。

一生涯で浴びる放射線量の平均

日本：1.48ミリシーベルト/年×80年
=118ミリシーベルト
世界：2.4ミリシーベルト/年×80年
=192ミリシーベルト

8月号では自然界に存在する放射性物質についてお知らせします。



放射線と発がんリスクの比較

発がん要因	発がんリスクの増加
1000~2000ミリシーベルトの放射線を浴びた場合	1.8倍
喫煙	1.6倍
毎日3合以上の飲酒	1.6倍
500~1000ミリシーベルトの放射線を浴びた場合	1.4倍
毎日2合以上の飲酒	1.4倍
やせすぎ	1.29倍
肥満	1.22倍
運動不足	1.15~1.19倍
200~500ミリシーベルトの放射線を浴びた場合	1.19倍
塩分の取り過ぎ	1.11~1.15倍
100~200ミリシーベルトの放射線を浴びた場合	1.08倍
野菜不足	1.06倍
受動喫煙	1.02~1.03倍
100ミリシーベルト以下の放射線を浴びた場合	(検出不可能)

6月の空間放射線量測定記録

市は、毎週火曜日、市内6カ所で測定器を使用し、空間放射線量を測定しています。

※掲載データは、市ホームページからもご覧になることができます。

単 位：μSv/h（1時間当たりのマイクロシーベルト）
測定高さ：地表面+1m

	6月5日(火)	6月12日(火)	6月19日(火)
クリンクルセンター (13:30測定)	0.034	0.036	0.034
鷺別支所 (14:00測定)	0.032	0.026	0.036
登別支所 (14:30測定)	0.028	0.028	0.036
登別温泉支所 (15:00測定)	0.032	0.036	0.036
市民会館 (15:30測定)	0.032	0.026	0.024
ふおれすと鉱山 (16:00測定)	0.036	0.036	0.036

※年間放射線量（ミリシーベルト）= 1時間当たりの放射線量（マイクロシーベルト）×24時間×365日÷1,000

問い合わせ 環境対策グループ（クリンクルセンター内・☎⁰¹¹2958）